本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	落ち着いて学び生活しよう
目標(評価規準)	アンケートの「学習への意欲」、「基礎基本」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の肯定的な回答	
重点に係る現状 設定理由	統合閉校に向けた取り組みを行う中、日常の学び、生活を着実に積み重ねる 日常の学びに統合閉校への取り組みを効果的に取り入れ、児童の負担を増やさないようにする	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面において基礎基本の定着については、成果と共に課題が残る状況であった。 ・総合的な学習の時間や生活科の授業に閉校への取り組みを関連付けることで児童の負担を軽減させることができた。 ・体験的な活動が多く、座学を体験と組み合わせることもできたことから、活動を利用しながら思考力や判断力、表現力にアプローチする方法を活用することができた。ただ、それぞれの力の定着についてはまだこれからである。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、保護者共に8～9割が学習に対する意欲の面で肯定的に捉えており、一部基礎基本の定着に課題を感じている様子が見られた。 ・思考力、判断力、表現力についての項目についても肯定的な回答が多く、意欲を持って学習に取り組んでいる様子が伝わってくる。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自信を持って学びに向かっていることは大切にしていきたいが、その質を上げていく伸びしろは大きいとらえている。 ・落ち着いた学校生活をめざす目標を職員と児童共通としたことで、多忙感により落ち着きを失いやすい状況の中でも立て直すことができていた。ただ、各行事の取り組みが重なり、授業を調整せざるを得ない状況もあったことは、反省点である。 ・多くの行事に保護者や地域の方々に多く関わっていただいたことで、職員の負担が軽減され、通常の教育活動に軸足を置くことができた。 ・本年度、校内研究に「学びのプラン」を取り入れてみたことで、児童が授業の流れや学びの意図を理解しやすくなったことも今年度の成果と考える。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね良好である。児童は、閉校に向けた行事が多い中でよく切り替えて日常の学校生活を落ち着いて送っていた。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、統合初年度ということで学校全体が新しい環境となる。その中だからこそ今年度の本校同様に「落ち着いて学習や活動に取り組む」ことは学校全体の目標の一つになると考える。 ・統合校では、全児童が落ち着きと安心感で学校生活が送れるようにするために、一日も早く充実した授業が軌道に乗るよう進めていくことが大切である。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	新たな未来に向けて前進しよう
目標(評価規準)	アンケートの「主体性」「学習が社会とつながる」の肯定的な評価	
重点に係る現状 設定理由	統合に向けた取り組みを通して、未来や進路に目を向けて自分の将来に意欲を持たせる 南下浦小学校との交流を社会性を育てる場として活かす	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性、社会とのつながりについて、全職員が肯定的な捉えをしている。 ・教育活動に取り組むにあたり、児童が自ら考えて行動できるような働きかけを行ってきたことにより、学年の段階により、また徐々にではあるが、「やらされ感」から自分の考えと判断、方法で行動する場面が増えてきた。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートでは、8割強の児童が、自ら考えて行動できる力や社会とつながりについて肯定的な感触を得ている。 ・保護者アンケートでは、約9割が肯定的な捉えをしている。今年度は、児童の様子を保護者が間近に見る機会が多く、学校の指導や児童の様子が伝わりやすかったと感じている。改めて学校での取り組みの意図を保護者にわかりやすく伝えていくことの必要性を感じる。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、児童が主体的に動くことの意味について、本校のテーマとして職員全体で考えてきた。 ・また、日常の教育活動が教員から児童に教え込むベクトルから、児童の中で、児童同士で思考しながら物事を進めていくようなベクトルに変換しようとする考え方を共有してきた。 ・授業や行事の場面で少しずつではあるがその成果が表れてきていることを実感している。 ・指導の意図を職員全体で共有することの大切さを実感することができた。 ・南下浦小学校との交流を計画的に行ったことで、新しい友達との関わりや学校づくりへの意欲を持たせることができた。児童が学校の外の社会とのつながりを感じていく実践の一つになったと考える。 ・児童の実感は、その実践的な場面があって生まれるものである。児童の実態を踏まえての場づくりが重要と考える。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は、様々な行事の中で活躍の場面が多くあった。行動につながる取り組みが児童を育てている。 ・今後、新しい環境の中で、児童が主体的に道を切り開いていく力がさらに育っていくことを願う。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や自分たちの未来(将来)を主体的に考えるために必要な考え方や、児童が実感できる場づくりについては、さらに検討が必要であり、今後の教育活動の大きな柱の一つになると考える。 ・統合校においても、また中学校を含めて義務教育の中でどんな力を育てていくのかについて、さらに学校全体で取り組みを進めていくことが大切である。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	「ありがとう」を感じよう 伝えよう
目標(評価規準)	アンケートの「人と関わる」「協力」「社会と関わる力」の肯定的な評価	
重点に係る現状 設定理由	閉校に向けた地域の人々の思いや協力から、人がつながることの意味を体験的に学ぶ 閉校と向き合い、自分や仲間の思いや気持ちに触れること、伝えたり共有したりすることで心を育てる	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が肯定的な捉えをしている。 ・今年度は特に閉校に向けた取り組みの中で学級内だけでなく学校全体で協力をしながらの活動が多かったことに伴い、協力することや互いの思いやりについて児童に意識させることも多かった。そのことによる児童の良い変化や成長を実感する場面が多かった。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は、9割前後が肯定的な捉えをし、保護者からは9割を超える肯定的な回答があった。 ・活動の中に保護者が関わることも多く、保護者自身の目で児童の様子を確かめることができた一年間であったこともこの結果に表れていると考える。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<ul style="list-style-type: none"> ・閉校への取り組みを通して仲間と協力する機会がこれまで以上に多くあったことで、その意味や仲間の頑張りを学ぶ有効な機会となった。 ・例年以上に保護者や地域の方々が学校に入り児童のサポートをしてくれることが多かった。そのことで児童が学校と学校の外の世界とのつながりを体験の中で実感することができた。 ・社会で生きていく力を身につけていくうえで大切な、人との関わり方を身につけていくためには、通常の教育活動の中にも意図的にそのことを実感できる場面を増やしていくことや、そのことを意識化させる指導を重視していく必要があると考える。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が学校を応援する姿に子どもたちが触れられたことには大きな意味がある。 ・これまでの活動を通して仲間や地域とのつながりをより深く感じられたのではないかと考える。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・少数だからできる異学年との関わりの中での人間関係の体験は児童にとって大切なことであった。 ・少数ならではの人間関係が固定化されることへの対応はより丁寧に行っていく必要がある。 ・教育活動の中にどのような割合で、またどのような方法で人との関わりについて児童が学ぶ場面を位置づけていくのかを学校全体の重要なポイントとして取り組みを進めていくことが大切である。